

## 環境経済学(モジュール3)・授業内容

### 1. 環境と社会経済システム(学習時間 25 時間)

工業化社会においては、経済成長が社会全体にとっての自明の目的とみなされ、そこでは、過剰な自然環境の利用が行われ、環境破壊が進んでいる。

そこで、以下を概括することにより、環境と社会経済システムとの関係を学ぶ。

- 自然と社会システム
- 環境政策の経済学的評価
- 社会システムと社会選択
- 環境制約下の社会のあり方
- 環境問題の全体論的認識

### 2. 環境と市場(学習時間 25 時間)

環境と市場の間には多元的で錯綜した関係が見られる。ここでは、市場経済における環境問題発生の原因、環境問題への対策としての市場の活用、さらにリサイクルビジネスの可能性と限界などの諸相を多面的に学ぶ。

- 市場メカニズム
- 外部不経済の発生
- 環境コストと価格設定
- 排出権取引
- リサイクルの功罪

### 3. 人口と環境(学習時間 25 時間)

人類の活動が環境劣化の原因であることは論を待たない。工業化社会は環境からの過度の収奪を行うだけでなく、人口の爆発を招き、それがさらなる環境問題を引き起こしてきた。

また、人口は地球上の資源の希少性によって制約を与えられるものである。

ここでは、人口と環境との相互関係を、資源問題を絡めつつ、複数の切り口から概観する。

- 地球の人口扶養力
- 再生可能資源と枯渇性資源
- 共有物の悲劇
- 都市環境と人口
- 少子高齢化と環境

### 4. 持続可能な開発(学習時間 25 時間)

地球の有限性を超えた人類の活動が環境劣化を招き、人類自身、および地球そのものの存立が危うくなっていることは広く認識されている。これに対応して、経済社会の持続

可能な開発、すなわち、地球の許容力のうちのみで、環境を永続的に利用していこうという概念が生まれてきた。

ここでは、本モジュールのまとめとして、持続可能な開発の概念およびそのあり方を概観する。

持続可能性とは

持続可能な開発に向けての課題

持続可能な開発のための活動

持続可能な地域社会-都市と農村

#### 5. 環境会計(学習時間 25 時間)

企業等の組織を環境保全活動に向けて動機付け、またその活動を実効性の高いものとしていくためには、定量的な評価手法が不可欠といえる。またその成果は、活動の価値を社会に対して客観的に提示する根拠を与えるものである。

ここでは、定量評価の有力な手法である環境会計の基礎を学ぶ。そのなかで、環境会計の可能性とともに、主に環境価値の貨幣還元の難さに由来するその限界を明らかにする。

環境会計の理論的枠組み

環境費用/経済的效果分析

環境保全効果の評価

環境会計の限界